

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：保健体育費 目：体育振興費

事業名 特別支援学校ふれあいスポーツ大会補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 体育健康課 学校体育係 電話番号：058-272-1111(内8721)

E-mail：c17769@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 750 千円 (前年度予算額： 750 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	750	0	0	0	0	0	0	0	750
要求額	750	0	0	0	0	0	0	0	750
決定額	750	0	0	0	0	0	0	0	750

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

特別支援学校体育連盟では、陸上競技、フライングディスク、サッカー、バスケットボール、バレーボール、卓球の6つの専門部が設置され、令和3年度からボッチャ、リトミックが交流委員会として加わり、運動部活動の推進を図ることによって、より多くの児童生徒が運動やスポーツに出会い、各競技種目の競技会に積極的に参加できるようにしている。

(2) 事業内容

特別支援学校におけるスポーツ活動の推進を図るため、毎年開催される特別支援学校ふれあいスポーツ事業に要する経費の一部を補助する。

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・ 県負担・定額補助
- ・ 特別支援学校におけるスポーツ活動の補助として、設置者である県負担は妥当

(4) 類似事業の有無

- ・ 無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	750	ふれあいスポーツ事業開催補助
合計	750	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・ 岐阜県清流の国スポーツ推進条例第11条
- ・ 清流の国ぎふスポーツ推進計画
- ・ 第4次岐阜県教育振興基本計画
 施策IV 「学びの多様なニーズに応える環境」の充実
 2.4 文化芸術やスポーツなどの才能や個性を伸ばす機会の充実

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	特別支援学校ふれあいスポーツ大会補助金
補助事業者(団体)	岐阜県立特別支援学校体育連盟 (理由) 事業主催者であるため
補助事業の概要	(目的) 特別支援学校の児童生徒が、日頃の体育スポーツ・レクリエーション活動の成果を発表するとともに、相互の親睦をはかる (内容) 事業の開催に係る経費の補助を実施 専門部：陸上競技、フライングディスク、サッカー、バスケットボール、卓球、バレーボール 交流委員会：ポッチャ、リトミック
補助率・補助単価等	定額 (内容) 750千円 (理由) 特別支援学校のスポーツ活動推進のため開催経費の一部補助が必要であり、平成22年度から同額。
補助効果	特別支援学校におけるスポーツ活動を一層推進するとともに、一人一人の障害の実態に応じて運動に親しむ資質や能力を育て、明るく豊かで活力ある生活を送ることができる。
終期の設定	終期 令和10年度 (理由) 終期の定めがないため、事業を点検する。

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>特別支援学校におけるスポーツ活動の振興、児童生徒の健全な発達を目指すとともに、県民の特別支援教育に対する理解と啓発を図ります。</p>

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前(R)	R6年度実績	R7年度目標	R8年度目標	終期目標(R10)	達成率
①参加児童生徒延人数		674人	1,000人	1,000人	1,000人	67.4%
②						

補助金交付実績 (単位：千円)	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	750千円	750千円	750千円	750千円

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした事業もあったが、チャレンジ陸上競技大会を3年ぶりに開催するなど、コロナ以前の活動が戻りつつあり、生徒の様々な活動が活発に行われた。
令和5年度	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止になっていた、フライングディスク、駅伝競走大会、卓球大会を開催するなど、生徒の様々な活動が活発に行われた。
令和6年度	児童生徒の健康、安全に留意しつつ、計画通り事業が実施された。家族の参加、合同チームの参加、近隣の高校生の参加など、競技ごとに工夫があり、児童生徒同士が積極的に交流を図る機会となった。
指標① 目標：1,000人 実績：674人 達成率：67.4%	

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	社会的な情勢からも特別支援教育に対する関心度は高く、開催経費のほとんどを補助金に頼る本事業開催への支援は欠かせない。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)	
(評価) 1	日頃、経験できない環境で多くの仲間や教員と交流し、スポーツに親しむことで、障がいを持つ子どもたちが、将来、自立して活動できる力を養う場となっている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	使用料を最小限に抑えるなど、経費削減に努めている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 特別支援学校への就学生徒数が増加しており、事業の経費が増大することが考えられる。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 事業の評価を勘案し、事業継続が必要。
--